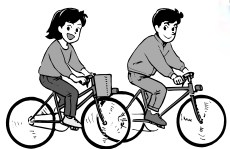


サイクリングと ワークショップ

参加者募集



「自転車人と車と
調和するまち」を目指して

自転車は、通勤や通学、買い物などだれでも手軽に利用できる乗り物として広く親しまれています。また、近年、地球温暖化を防止するための方法の検討など、地球環境への負荷を軽くすることが、日本だけでなく世界的な課題となっています。こうした時代に、環境にやさしい自転車が注目されています。

市では、車中心の交通社会から、自転車や歩行者を主体とした「環境に配慮したまちづくり」を進めるための手法について検討するため「彦根市エコ²（エコロジー&エコノミー）自転車とまちづくり委員会」を設置しています。この委員会は、市民が主体となって調査や研究を行っていただく組織です。

このほど、委員会では市民の皆さんと一しょにサイクリングを楽しみ、その後ワークショップ形式で「自転車が人と車と調和するまちを目指して」をテーマに意見交換を行います。だれでも自由に参加し、発言していただくことができます。

日時 3月24日(日)10:00~17:00

| | |
|-------------|---------------------|
| 9:45 | 市役所前駐車場に集合 |
| 10:00~12:00 | 彦根城周辺などのコースをサイクリング |
| 12:00~13:00 | 昼食 (各自で用意してください) |
| 13:00~16:00 | ワークショップ |

貸自転車希望する人にはあっせんします。
雨天の場合、午前のサイクリングは中止し、午後のワークショップのみ実施します。

場所 市役所およびその周辺

定員 30人(先着順)

参加費 無料

申込期間 3月4日(月)~

申込・問い合わせ先

彦根市エコ²自転車とまちづくり委員会事務局
(生活環境課内)

☎22-1411(内線131) FAX27-0395

E-mail s-seikat@mb.city.hikone.shiga.jp



アイリスのたすきどつなごう

じのかけはし

アイリスIIあいさつ運動の合い言葉(20ページをご覧ください)



北村実香さん
(中央中学校3年)

標語・中学生の部



標語・小学生の部



木下知治さん
(佐和山小学校6年)

「ありがとう」
私とみんなの
愛言葉



田口葉月さん
(稲枝西小学校2年)

ポスター・小学生の部

作文・中学生の部



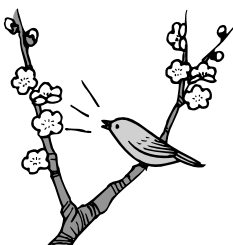
北川真衣さん
(彦根中学校3年)

部落差別について

この間、人権について考える機会がありました。人権学習の授業でビデオを見て、人権について学んだからです。ビデオの内容は、ある高校生が就職するために採用試験を受けるが、部落だという理由で落とされるという部落差別についての内容でした。私は、前から部落差別について何度か考えたことがありまし

た。いろいろな差別がある中で、特に部落差別については関心がありました。人種差別や男女差別には、はっきりとした違いがあります。その違いが、間違った考えから差別につながったものです。しかし、部落差別には差別する側とされる側の違いが全くありません。昔の人が勝手に決めた身分制度によってできた部落に住んでいるというだけで差別されてしまつたのです。そこに住んでいる人には何の原因もないのに、差別する側の勝手な思い込みによって差別されるのは絶対におかしいことだし、いけないことだと思えます。部落だからという理由で、差別や偏見を受けるのは差別される側からしてみればとてもつらいことだと思えます。

なぜ、今でも部落差別というものが根強く残っているのでしょうか。それは古い考えや誤った知識が、まだ多くの人の心の



中に残っているからだと思えます。誤った知識による先入観だけで判断してしまうのはとても危険なことだ。頭ではいいけどわかっていても、差別が消えないのはそういった先入観があるからではないでしょうか。一人ひとりが正しい知識を得ることが一番大切だと思います。また、今までも部落差別をなくそうとたくさんの方の運動が行われてきました。その運動の結果、昔に比べると差別をする人は確実に減ってきています。しかし、完全になくなつたわけでは一人ひとりが正しい知識を得るそうするためには正しい知識を

「差別や偏見はいけない」だれもが知っていることですが、差別や偏見は今も私たちの周りにたくさんあるのです。それは「これくらいなら」という安易な考えが引き起こすものだと私は思います。もっと、一人ひとりが差別される側の身になり、その気持ちを理解してほしいと思います。人権という、人が生まれながらに持っている権利につ

選評

人権学習の授業を通して、部落差別の現状を知り、いかにして差別をなくしていくか深く考えています。「一人ひとりが差別される側の身になり、人権の大切さを知る」とともに「まずは私から、そしてみんなですらつても差別のない、人権の守られた社会を私たちの手でつくつていきたい」という気持ちを素直に表現しています。

はーとふるメッセージ

2001

第2回

『わたしと人権』

特選作品紹介

ポスター・小学生の部



辻彩さん
(若葉小学校6年)



持った人を一人でも多く増やすため、一人ひとりが差別はいいくないということを訴えていく必要があると思います。自分一人だけでなく、周りの人たちにも広めていくことが部落差別をなくすためには必要だと思えます。それは部落差別に限ったことではなく、ほかのことにも共通すると思います。

いてもつとよく考え、人権の大切さを改めて知ってほしいと思います。まずは私から、そしてみんなですらつても差別をなくしていき、差別のない、人権の守られた社会をこれから私たちの手でつくつていきたいと思えます。